

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第1学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	定期テストや小テスト、提出物などから鑑みるに、基本的な知識・技能ともとても低いと感じる。それに応じて判断力・表現力・思考力も低いものとなっており、小学校での取りこぼしが多くみられる。ただし、中学になり学習に取り組む意欲が高く、主体的に学ぶ姿勢を見せる生徒も多い。特に指示されたことには従い、真面目に取り組む生徒が多いので、ICT機器のアンケート形式による質問や、スライドなどを使用し、国語の学習に取り組む必要性を維持させることが	ICT機器などを活用し、意味を調べたり漢字練習など、基本的な知識・技能の獲得を充実させ、語彙力を高める。また、それらを基に心情や考えを読み取る課題を十分に設定し、紹介するように、ICT機器のアンケート機能などを有効活用する。それによる「気づき」や自分との「差異」を学ぶことを通し、自ら意欲的に学習活動に取り組む姿勢を保つための授業設計を心がけたい。	
社会	提出物、授業道具忘れなど、学習に向かう基本姿勢が習慣づけられていない生徒が多くみられる。特に、話を聞いて考える訓練の不足が感じられる。また、時事問題についても関心の高い生徒も少なく、総体的に見た基礎学力の欠如が感じられる。	まず関心を持たせるために、時事問題を適宜織り込みながら授業を進める。また、単元ごとにワークや小テストを行うことによる復習を行い、既習事項の定着を図る。	
数学	定期テストや小テスト等による基礎学力が不足していて、集中力に欠ける生徒がいる。また、少し難しいと感じるとあきらめてしまう生徒も散見される。しかし、2学期になって、新しい単元「方程式」に入り、意欲的に取り組んでいる様子も見られる。数学が苦手でない生徒の中にも、文章を読み取り式に表すこと、グラフで考える力など苦手としている生徒がいるので、丁寧に取り組む必要がある。	低学力の生徒には、スモールステップで小テストを行い、点数を取らせることで意欲を継続させる。基礎が学力が定着している生徒には、なぜそうなるのか、しっかりとその根底にある性質や定理などを確認し、理解させながら授業を行うことで、差・成学力の向上を目指す。	
理科	興味関心を持って取り組んでいる生徒が多い。積極的に発言する生徒もおり、授業での話し合いは活発である。しかし、知識理解の浸透は、授業だけでは、十分ではなく、振り返る家庭学習が必要である。また、観察や実験なども指示が通りやすい。特に定量的な問題に対応する力が身に付いていない生徒が多い。基本的な計算力が身に付いていないと、理科に対しての興味も薄れ、意欲的に取り組むことが難しくなる。	授業で基本的な計算力や、問題を読み取る力をつけることは困難である。放課後等を利用し、個々に対応した学習教室を開くなどしなないと解決できないと考える。しかし、そのような時間の確保はできないので、現在の状況を改善することは難しい。学校では対応困難な観察・実験についてはICTの活用を進めていく。	
音楽	1年生にしては全体的に指示をよく聞くことができ、メリハリもついている。合唱の意欲の高さは目を見張るものがある。課題としては、その時その時で意欲に波があることである。音楽の授業を「勉強」として捉えていない部分がある(その時の気分で意欲が変わってしまう)。	意欲をコントロールできるよう、授業の中に1つは知的好奇心をくすぐる場面を入れる。また、「勉強」と意識させるために、知識を身に付けさせる。発声原理など、3年度を見据えて、知識は感覚的に覚えさせるのにとどめる。	
美術	落ち着いて授業を行うことができ、意欲や関心についても高い生徒が多い。しかし、表現の意欲については拙い面がある生徒が一定数いる。発想や構想についても、案を練り切れない生徒が見られる。鑑賞についても、言語表現の向上が課題である。	1時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、全体指導に加え、個別指導を充実させる。発想力を高めるために、クロッキー帳を活用して、アイデアスケッチを繰り返させる。鑑賞タイムを設け、ICTや言語活動を取り入れることで、心情を表す力を高めたい。	
保健体育	運動が得意な生徒と不得意な生徒の大きな2極化が見られる。基礎的な体力、運動能力もまだ開発されていない生徒が多い。自ら体を動かす習慣を身につけさせ、その運動の特性を生かしながら、スキルや体力の向上を目指していく必要がある。集団での指示よりも個々の指示を期待する傾向がある。集団の中で切磋琢磨していく活動を課題としたい。	毎回の授業で、継続走や補強運動を取り入れ、基礎体力の向上に努めていく。具体的な個人内目標を掲げて指導していくとともに、グループ内での学び合いの場を作り、主体的に活動できるよう指導していく。また、集団を意識させる連帯責任の導入や言葉での指示で動けるよう、繰り返しの指導を行い、集団行動の基礎を徹底させていく。男女共修を試みる。ICTを活用していく。	
技術・家庭	年間授業時数が少なく、緻密な授業計画を立てる必要がある。学習内容を実生活に結び付けることで興味・関心を高める。家族の立場と役割について関心を持っている。幼児の生活について、意欲的に学習しようとしている。	自らの回りの生活にある課題を見つけ、解決する作品作りに取り組めるような授業を展開する。ICT機器を活用し、効率的に作業を進めることや学習内容が実生活で活用されている例などを示す。自分の生活や家族について、課題を見つけ工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件	
外国語(英語)	小学校英語ですでに習熟の格差ができており、教科に対する興味が高い生徒とそうでない生徒との差は大きい。全体的には意欲的に授業に取り組んでいるが、特に中学校から本格的に始まった「読むこと」「書くこと」に対しては、音と文字がまだ結びついておらず、難しいと感じて前向きに取り組めない生徒が一定数いる。さらに教科書改訂にともなう語彙数と文法事項が豊富になり、生徒の負担が大きくなっていく現状がある。「聞くこと」については概ね良好で、小学校英語の効果が感じられる。コミュニケーション活動における「話すこと」についても、英語を積極的に使おう	語彙、文法の習得には、デジタル教科書の教材を活用し、ドリル活動で反復練習を行う。また教科書の内容理解には、デジタル教科書のピクチャーカード、映像資料を用いて場面の理解につなげ、くり返し英文の音読練習を行い、ディクテーションや単元テストで重要表現の習得を目指す。ALTとの言語活動を通して、習った英語を表現する機会を増やす。スローラーナーには、文字と音を一致させ、しっかりと音読ができるように指導する。ICTを活用すると同時に、教師自作のプリントを活用して、書くことによる語彙・文法の定着	
道徳	ほとんどの生徒が道徳的価値を見出すと、教材と真剣に向き合い、登場人物になりきって心情をとらえたり、発問に対する考えを、口頭や文章で表現している。意見交換をしながら他者の考えに耳を傾け、考えを深める生徒が多くいる一方で、あまり自分の考えを持たず、他の生徒の考えに流される生徒も見受けられる。自分自身をふり振り返り、普段の生活に活用していこうと考える生徒は多いが、実行するまでには課題が残る。	身近な課題や問題に近い教材を通して、考え、意見交換をしながら考えをより深めさせたい。考えを深める中で、判断力を高めたり、成長できるように、普段の行動で振り返ることができるような学習活動を意識させる。クラスで活発な議論や意見交換ができるように発問や声かけを工夫している。意見のまとめや発表のやり方においてもホワイトボードを利用するなど工夫している。	
総合的な学習の時間	テーマの設定、調べ学習、調べた内容を分かりやすくまとめる力が着いてきている。プレゼンテーションソフトを使った発表に意欲的に取り組み、聞く側が興味を持てるような工夫ができる生徒を増やしていきたい。	インターネットなどを使い、多方面にわたって調べ、考えさせる。外部の講師の方に依頼して「講演」をしていたり、それを通していろいろな角度から「見て」「聞いて」「考える」ことを促す。	